

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

ブルーバレンタイン

2010年・アメリカ映画
配給/クロックワークス
112分

2011 (平成 23) 年 3 月 10 日鑑賞

東映試写室

Data

監督・共同脚本：デレク・シアンフ
ランス

出演：ライアン・ゴズリング/ミシ
エル・ウィリアムズ/フェイ
ス・ウラディカ/マイク・ヴ
オーゲル

👁️👁️ みどころ

徐静蕾（シュー・ジンレイ）主演の中国映画『我愛你（ウォ・アイ・ニー）』（03年）は徹底した夫婦ゲンカを描いたが、本作は夫婦ゲンカとラブラブのサマを交互に描くから、その落差にビックリ！お腹の中の子供の父親のことでまで許容し、妻子を心から愛しているのに、価値観が異なればやはり「おしどり夫婦」は無理？勝新太郎と中村玉緒、阪田三吉と小春などと対比しながら本作の夫婦愛を検討してみれば、一層興味深いかも・・・？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■夫婦はやっぱり似た者同士が一番？それとも・・・？■□■

芸能界では勝新太郎と中村玉緒、津川雅彦と浅丘雪路のような仲よし状態が長く続く（続いた）「おしどり夫婦」もあるが、それは例外。どちらかという、ラブラブ状態が長く続かず破綻する夫婦の方が多い。ちなみに、阪田三吉と小春の夫婦愛は小説、映画、歌の『王将』で有名だが、これは典型的な破綻型亭主と尽くし型女房の恋物語。しかして、夫婦仲はこのような両極端の方がいいの？それとも、やっぱり似た者同士の方がいいの？

■□■この夫婦の場合は？■□■

そんな観点で本作の夫ディーン（ライアン・ゴズリング）と妻のシンディ（ミシェル・ウィリアムズ）をみると、2人の人生観、仕事観、家族観、経済観などは両極端。元医学生で今は看護師として忙しく働いているシンディは努力型で、上昇志向の性格。他方、現在ペンキ塗りの仕事をしているディーンは、収入は少なくとも朝からビールを飲みながらでもできる仕事としてそれに十分満足していることからわかるように、今を楽しく生きれ

ばそれで十分という人生観の持ち主だ。2人には一人娘のフランキー（フェイス・ウラディカ）がいるが、忙しいシンディに比べて娘との時間をたっぷりとることができるディーンは心から娘を愛しているから、これはこれで一種の理想的な夫婦？ところが、家族が愛していた飼い犬が事故死したところから、2人の価値観の相違が次第に顕著に……。

■□■なるほど、こんなラブホテルの活用法が……■□■

デレク・シアンフランス監督が11年間も練りに練ったという脚本は実に面白い。飼い犬を失った悲しみを忘れるためのディーンのプロ案は、このところすっかり「あの方面」にご無沙汰だったこともあり、町から離れたラブホテルへ2人で行き、酒を飲んで騒ぎエッチをしてその悲しみを忘れようというものだった。夫婦間の性生活が無くなっていたのは、第1にシンディが忙しいこと、第2に生き方の問題に触れる話になるといつもケンカになってしまうためだから、ディーンのコような提案はシンディにしてみれば論外。しかし、逆にそれを拒否すると……？

さあ、本作が描くラブホテルでの2人の過ごし方は？

■□■アメリカでは、20人くらいはごく普通？■□■

「ある有名女子高生の性的実態！」週刊誌にはそんな刺激的なタイトルが踊るが、さすがに60歳を超えるとそんな記事にはトンと興味がなくなった。しかし、人工妊娠中絶を決意して病室に入ったシンディが過去の男性経験を聞かれ、「20人くらい……」と答えたことにビックリ。シンディがそんな決心をせざるをえなくなったのは、ボーイフレンドだったボビー（マイク・ヴォーゲル）との性交渉の際、ボビーが避妊することを面倒がった結果望まぬ妊娠をしてしまったためだが、医学生として真面目に勉学に励んでいたシンディでも男性経験が約20人とは……。もっとも、今の日本の女子中学生や女子高生はもっと多いかもしれないから、性の乱れは米日共通……？

そういう捉え方もあるが、シンディがたくさんのボーイフレンドとセックスフレンドだけの関係から越えられなかったのは、一種男性不信から。さらに、シンディがそんな男性観をもつようになったことには何らかの家庭的事情も……？

■□■あの夫婦ゲンカもすごかったが……■□■

語学の学習は「I Love You」から。そう考えると、今まずあなたが覚えるべきは中国語の「我愛你」……。そんな「我愛你」をタイトルにした映画が、中国第6世代監督の旗手、張元（チャン・ユアン）が監督、共同脚本、製作し、中国四大女優の1人徐静蕾（シュエ・ジンレイ）が主演した『我愛你（ウォ・アイ・ニー）』（03年）。もっとも、この中国映画はそんなタイトルとは裏腹の夫婦ゲンカがテーマで、中国四大女優の中でもっとも知的な女優であるはずの徐静蕾が、とにかく夫婦ゲンカでわめきちらす熱演に体あ

たり（『シネマルーム17』345頁参照）。なぜここでそんなことを書くのかというと、それは本作において徐々にエスカレートしていくディーンとシンディの夫婦ゲンカぶりをみている間に、思わずこの中国映画を思い出したためだ。

本作のハイライトは、何といってもラブホテル内で展開される2人のバトル。2人のケンカの発端は、買い物のために途中立ち寄ったスーパーで、シンディが偶然昔のボーイフレンドだったボビーに出会ったことを車の中でディーンにしゃべったこと。男は繊細な動物(?)だから、ディーンはシンディのそんな報告(?)にいかにも反応?まずは、ここに見る2人の会話によるバトルに注目したい。もともと、アメリカ人は気分の切り換えが早いのか、シンディはラブホテルの中に入ると、まずはシャワー、そして大量の酒を飲みながらディーンがガンガン鳴らす音楽にあわせて踊っていたが、良い雰囲気になってきたところでディーンがシンディに対してセックスを求めてきたから、そこでまた一悶着が。ディーンにしてみればそれが目的(?)だから、この期に及んでそれを拒否されたのではたまらない。半ば強引にセックスを求めるが、それ以上いくといくら夫婦でも今はやりのドメスティックバイオレンス(DV)に?しかして事態は最悪な結果になるのだが、さてあなたが想像しうる最悪の結果とは?

■□■一目ボレから一直線、更にここまで。すると女は?■□■

本作の夫婦ゲンカぶりは『我愛你(ウォ・アイ・ニー)』のそれにヒケをとらないが、本作が面白いのは、それと対比するかのように2人が出会い、恋に落ちていく様子がビビッドに描かれること。ディーンがシンディにはじめて出会ったのは、ディーンが引越屋のバイトをしている時。そこでなぜかディーンはシンディに対して一目ボレとなってしまったようだから、男女の出会い面白い。

シンディが何人もの男友達とセックス関係にありながら心を許す相手に恵まれなかったのはいろいろな理由があるが、一目ボレした後のディーンの一直線ぶりはそりゃ立派なもの。ここまでアタックされたら並の女なら誰でもなびくはずだ。しかもディーンの場合は、経済的には頼りないもののジョークに富みユーモアにあふれていたから、じっくりつき合ってみるとこりゃ結構魅力的な男?本作が描く夫婦ゲンカの極限状態はきわめて惨めだが、逆に恋に落ちた2人の幸せの絶頂時の描き方はすばらしい。

ところで、自分が心から愛する女が妊娠していたことが判明。しかも、その父親は自分ではなく、以前のボーイフレンドらしい。猛烈にアタックしてやっと心を開いてくれた女からそんな「告白」を受けたら、さてあなたならどうする?なるほどそうだったのか……。そこまで男が自分のために尽くしてくれるとわかれば、やっぱり女は?今までずっとディーンは心の底からシンディと娘のフランキーを愛してきたし、夫婦ゲンカ状態にあってもそれはいささかも変わらないらしい。

■□あれが最悪と思ったが、さらなる最悪が・・・■□

去る3月11日に発生した東日本大震災から1週間が経過した。津波の被害も想定外らしいが、福島原発の損傷によって毎日続いている冷却作業は予断を許さない状況になっており、これまた想定外。人間はすぐ「最悪の事態は・・・」と言うが、あれが最悪だと思っ
ていても、実はさらなる最悪の事態も・・・。

本作にはそれと同じように、ラブホテル内での夫婦ゲンカが最悪だと思っていたのに、その翌日には目を覚ましたディーンがシンディの病院におしかけ、シンディとの「話し合い」を望んだ(強要した)から大変。もはや夫婦ゲンカは2人だけのものではなく、病院を巻き込んだ社会的なものに変質してしまうことに・・・。そんな事態に直面すれば誰だって「とりあえず病院内での夫婦ゲンカは中止し、家でゆっくりやってくれ」と言いたくなるはず。したがってシンディを引き立ててくれていたドクターが2人の間に割って入り、そのようにアドバイスしたのは当然だが、それに対するディーンの対応は?ディーンのように惚れた女に一直線のタイプは、他のことでもこうと思いついたら周りが見えなくなる傾向が強い。しかして、そこで起きた事態はまさに最悪。さあ、コトここに至ってシンディが下した決断とは?

それにしても、あんなにラブラブの絶頂期にあった2人がこんな最悪の状態を迎えようとは・・・。デレク・シアンフランス監督が描く、その天国と地獄のサマにいたく感心!

2011(平成23)年3月18日記

先に妻に逝かれると、夫は抜け殻に?

1)名優・長門裕之が11年5月21日、77歳でこの世を去った。世間的には「太陽族」を世に知らしめた石原慎太郎の小説を映画化した『太陽の季節』(56年)が有名だが、私は小学生の時に観た『にあんちゃん』(59年)の印象が強烈だった。中学生からは浜田光夫・吉永小百合の「純愛コンビ」を中心に日活の青春映画を観ていたから、『破戒』(62年)や『にっぽん昆虫記』(63年)など難解なものが多い(?)長門主演映画はどちらかという苦手?

2)70歳にして『デンデラ』(11年)

に主演した浅丘ルリ子は少女時代本当にキレイだったが、石原裕次郎夫人の北原三枝も、長門夫人の南田洋子も若い頃は本当にキレイだった。芸能界には勝新太郎・中村玉緒夫妻など「おしどり夫婦」が多いが、認知症を患った妻を必死で介護していた長門の姿には頭が下がる。

3)しかし妻に先に逝かれてしまうと、残された夫は抜け殻?平成21年10月の妻の死後、1年も経たずに夫も帰らぬ人に。50年以上の俳優人生に拍手しつつ、合掌。

2011(平成23)年5月30日記